

参加された皆さまからすばらしいお便りが届きました！



実際に行動することが大切

副団長 (株)京樽 阿井 正夫

今回は昨年をはるかに上回る盛大な日中友好植林式典となり、現地の人々との絆が一層深まったことを実感し、大変に感激いたしました。

私自身、日中環境保全友好植林実践会の発足以来十年にわたり活動に携わってきましたが、当時から思っているのは、私たち日本人は中国から割り箸や木材製品を購入して、豊かで文化的な生活を享受している一方で、中国、特に農村地域では非常に貧しく、その日暮らすのがやっとというような人々が多数いらっしゃるといふ現実です。

幸いにして我々は、中国の貧しい人々に代わって大地に木を植える、その手助けができるだけの経済的豊かさがあります。

今回も大連空港から岫岩県までの間に、「山に太い木がない」「非常に貧しい農家がたくさんある」といふ状況を実際に見



るなかで、我々は何らかの形で中国に還元していかなければならないと、改めて強く思いました。

たしかに我々の活動は、地球規模からすれば砂漠に水をまくようなことかも知れませんが、

しかしながら、実際に行動する、やろうとすることが大切なのです。現に植林式典への参加者も、一昨年までは数百人だったのが、昨年は二千人、そして今年には二万人の人々が我々の活動に共感、賛同し、植林に参加していただいています。

私たちの活動をもっと多くの人々に伝えて知ってもらおう。そして植林の輪が数年後、さらに数十年後にはさらに大きな輪となり、木々の成長とともに日中友好の大きな懸橋に育っていくことを願っています。



「For the People」すべては人々のために

(株)吉野家・ディー・アンド・シー 島田 健二

まず、圧巻という言葉がぴったりでは無いかと思う。我々の植林をした場所・バスで移動の度にみる風景と比べると、近代社会とは程遠くしかも荒れ果てた大地や山々が延々と何十キロも続く場所でした。

私は始めて植林活動に参加しましたが、これほどまでに中国の自然環境が破壊され再生が困難な場所である。という認識はありませんでした。またこの情景からは我々が便利に暮らしているのは、このような犠牲の裏にあるという事はすぐに見て取れる事でした。

事前の話や資料の確認から、今なぜ中国で植林が必要か？という事は理解して

いましたが、この情景を見れば、一目瞭然。植林の大事さを痛感させられるには余りある事でした。

今回で回を重ねる事九回、政府や地域住民にも大きく取り上げられ参加者は二万人となりましたが、本当の中国環境を良化させていくのはこれから！この植林をきっかけに、多くの国や企業・人々が自然環境を意識し大きな力となって地球環境を守って行かなければならない。と痛切に感じました。また、個人としても少しでも出来る省エネ活動や物を大事にすることを実践し、「循環型社会」が絵に描いた餅にならないようにしていかなければならないと感じました。

水を飲む時、井戸を掘った人を忘れない

副団長 (株)湧別商事 小島 博

界がありますが、中国に本物の森を作ったあげたいと想う実践会の考えが、伝わった様で、今年自らが変わった、この気づきは素晴らしい変化と思います。30年後、一緒に植林をした子供達は結

本物の森を作るためシユウヤンで育てた苗木を植林し、育林のため以外の伐採はしないと約束したシユウヤン人民政府との百年の約束は今回の植林で確認しました。それは参加された皆様も感じられたと思います。面積で去年の4倍40ha、2万人の参加。当日、小・中・高校生達は朝6時に出発し、私達の到着前には、小学生の苗運び、中学生、高校生の植林という分業を終らせて待っていてくれました。傘を持たない子供達もいて、小さな体にはきつかったでしょうが、その明るい顔に本当に胸を打たれました。この様な規模になったのは、人民政府の補助金と民間企業の寄付金で実現したそうです。私達実践会だけの予算で出来る事は限



今後この植林活動に参加させて頂きながら、何十年・何百年かけても環境を良化させ、今現在の人々とそして未来の子供達に誇れる自然環境を作る為に協力して行きたいと思えます。



婚し、誕生したその子に「この森は日本人が作ってくれたんだよ」と話している様子がはつきり見えます。

赤堀团长初め井出副团长、阿井副团长、佐藤副团长、さらに参加された各企業の代表の皆様、お疲れ様でした!!
ありがとうございます。



岫岩での感動
副団長
(有)佐藤商店 佐藤 浩一

植林当日の朝、五時半頃目が覚めまし
た。ふと窓の外を見るとかなり強い雨が
降っていました。「えー雨の中で植林か
いやだなあ、でもこの雨で植林出来るの
かな、そういえば雨具持ってたのかな
な」などと最初に自分の事を考えてしま
いました。でもすぐに「この雨では待っ
ている子供たちは大変だな。大丈夫かな
と、とても心配になりました。しかし七
時過ぎに朝食をとり植林地に向かって出
発する頃には、雨もすっかり上がって
いました。その時僕は、我々の日中友好植
林に神様が味方をしてくださり、そつと
微笑んでくださったような、そんな感じ
がしてとても嬉しくなりました。

植林地へはバスでは登れない山道を北
京ジープにゆられながら登って行きまし
た。山頂に着くと山の頂はとても大勢の
人たちが埋め尽くされていました。この
大勢の人たちを見て非常に驚きました。
今までの植林実践とはスケールがまた
く違っていたからです。事前に今年は二
万人位集まるらしいと聞いていましたが、
実際に眼のあたりにして、大勢の子供た
ちの熱烈歓迎を受けると、思わずこみ上
げてくるものがありました。セレモニーが
つづがなく終わるといよいよ子供たち
との共同作業による植林開始です。

今年は一m四〇cm程の広葉樹(キバム)
を中心にたくさん苗木を植えました。
我々一人一人に子供たちが三人位で手
伝ってくれるので、スコップで穴を掘っ
ては植え、又掘っては植えの繰り返しで、
全く休む間がありませんでした。一時間
程のわずかな時間でしたが、純粋無垢な
子供たちとの触れ合いで、僕の心もす
っかり洗われてだいぶ綺麗になったよう
な気分になりました。

岫岩での第一回目の植林は約二千人の
参加者でしたので、この一年の間で日中
友好植林に対する気運がこれほどまで



高まった事と「雨だれば岩をも砕く」の
言葉通り、我々が今までに小規模ながら
も誠実に行ってきた活動の積み重ねが、
中国の人々に伝わったように感じて、と
ても感動しました。聞けば地元の方々の
財界人の方々も日中友好植林活動に賛同
してくださり、多くの寄付が集まったそ
うです。今までここまで一所懸命にやっ
てくれた植林地は他には無いと思います。
岫岩での植林は来年が最後の予定ですが、
それで終わりにするのは、なんだかもつ
たいない気がしています。

これまで協力していただきました刈国
秀書記ならびに閔崇新県長、岫岩政府関
係者と財界人の皆様。そして一番の協力
者である子供たちに心から感謝いたして
おります。

最期になりましたが、この度一〇名も
の参加者を出され、幹事会社でもありま
す水野産業株式会社の水野啓次郎理事長、
赤堀晃治監事、事務局長の中田武巳理事、
入念な下準備をしていただきました小島
博理事、第一回より毎回二名の参加者を出
されております上中順一朗理事、岫岩
政府関係者との乾杯では、かなりがんば
っておられました阿井正夫理事、井出芳
則理事、木下淳理事。そして今回参加し
ていただきました皆様全員に改めまして
心より御礼申し上げます。ありがとうございます。
来年も又、皆様と御一緒させていただ
きたいと思っております。



植樹造林



今回で二回目となる遼寧省岫岩県での
植林であったが、現地サイドの受け入れ
態勢の用意周到さ、及び内容の濃さには
驚きを禁じ得なかった。勿論、事務局及
び湧別商事(株)小島社長を始めとする皆様
の御協力より発したものであるが)
これだけの植林地・面積・人数を揃え、
滞りなく円満に終えることができたこと。
これは、今後数世代に渡る当地での育林
事業に活かされていくこととして自明の
理と考える。即ち、日本の如くあらゆる
インフラが整備された環境下とは異なり、
満足とは言えない状況下でのこと。それ
だけの力量を持ち合わせるパートナーと
組んだ植林事業に、失敗の二文字は存在
しないと考える。ここにあらためて、
岫岩県人民政府・林業研究所の各位に謝
意を申し上げます。



植樹造林

ところで、「植林」のことを、当地中国
の言葉では、「植樹造林」と申すとか。ま
さに、「造林育林」を併い、地球環境への
緑の還元を進めるこの事業。今後、益々
未来永劫の希望の光が差し込んでくれん
ことを切に望む。



(株)まるき 木下 淳



植林活動の意義を実感

今回、日中友好植林式典に初めて参加
させていただきました。

大連空港から市街地を抜け、植林地で
ある岫岩までのバスから見える風景の中
にはほとんど緑の木々が見当たりません。
不適切な表現かもしれませんが、荒涼と
した風景がどこまでも続く中国の現状を
見て、ここで植林活動を行う意義を感じ
ずにはいられませんでした。

さて、岫岩で行われた植林式典には自
治政府関係者、地元小中学生ほか多くの
人々が参加し、そしてこれまで経験した
ことのない熱烈歓迎を受け、植林事業を
通じて日中環境保全友好植林実践会と岫
岩の人々との絆が深まっているのを実感
いたしました。また、親睦会の席では岫
岩の方々ともいろいろな話ができて、私自
身とても楽しい時間を過ごすことができ



株京樽 三宅 正昭

この植林活動が環境問題解決の第一歩
として、また日本と中国の人々が、お互
いに深く理解し合える活動としてより多
くの人々の共感を得、更に大きな活動へ
と拡大・発展していくこと。そして、い



最後にありますが、今回のツアーが私
の人生にとりましても大変有意義なもの
となりましたことを、赤堀団長を始め事
務局の皆様、参加者の皆様により感謝
申し上げます。
ありがとうございます。



大都市に緑のオアシスを描いて

アオト印刷株 榎田 肇

植林実践会への参加は二回目になり、中国のスピードデーな発展にまず、びっくりしたのは大連から岫岩へ向かう高速道路でした。数年前とは全く違う我が国と同レベルの規模と設備には、いきなり驚かされました。

岫岩での植林は心配された雨もあがり、既に小高い丘はかなりの苗木が植林されており当日も学生・市民・林業局員等、合わせて参加者二万人とのことで感激し、私も皆に負けまいと握ったスコップに力が入り、笑顔で元気な中学生がつぎつぎと差し出す苗木を植林していき、終了時

には限界に近いエネルギーを出し切り、達成感と大満足感の植林になりました。

翌日岫岩から海城市を経て瀋陽へ移動したおりに、車窓から見えた田舎の町並みと商店は、中国のありふれた地方都市でしたがひとつ変わったことを発見しました。驚いたことに地方の道路に「セントーライン」がひかれていた事です。空路北京につき車の大渋滞、オリンピックに向けてのインフラの整備に伴う多くの工事現場、宿泊客受け入れ為の建築ラッシュ、ホテルの隣でも一晩中工音が絶えませんでした。中国の開発スピードの

ひとつに二四時間工事という裏技を発見した次第です。

上海・北京と信じられないスピードで発展していく中国の勢いは、セントーラインから始まりずれば瀋陽市・海城市・岫岩県に広がり、七、八年後にこの度植林に参加した中学生が成人する頃には、岫岩の町も大発展を遂げて町の様相も様変わりしているに違いありません。そんな町から見える丘が木々の緑に覆われている風景を想像すると、あらためて植林実践会の意義と誇りを感じます。

この度は貴重な団長をはじめご一緒させて頂いた多くの皆様には、ご迷惑をお掛けしたり助けられたりの旅でした、皆様ありがとうございました。



まさに感動そのものでした

陽明印刷株 新妻 康宏

二回目の参加でした。前回、初めて参加させて頂いた時は、見る物も聞く物も全て新鮮で、しかもそれなりの感動でした。

今回は未だ、たった二回目の参加なのに、特別強烈なパンチを受けました。それは植林のスケールでした。

植林終了後、地元林業局側の発表により、約二〇、〇〇〇人の人々が参加されたと聞き改めて驚愕。

当日、植林を実施した小高い山は小・中学生であふれんばかり、まるで巨大なアリ塚のようでした。

今回の植林参加者は、我々日中環境保全友好植林実践会一行の他、地元林業局の方々、役所の方々、軍人とおぼしき方々、地元企業やボランティア、農民(?)の方々、そして数えきれない程多勢の地元の小・中学生の皆さん達。私は今回の植林事業に心底より強い感動を受けました。

何度でも申し上げます。誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。



す。そして身体の続く限り、植林事業に参加させて頂きたい。



信頼を得た植林事業

株日東ストロー商会 米田 忠雄

今年は昨年に引き続き岫岩で植林が行われました。昨年の大歓迎を思い出しながら出発の準備完了。ところが前夜に降った雨の為、山路はバスの通行が不能となつてしまい急遽手配して頂いた六、七台のジープに分乗しての出発となりました。途中の道のりでは皆様も大変な経験をされたかと思いますが、それも今回の思い出の一つとなったことでしょうか。

現地に着いたところ、そこには昨年を遥かに上回る二万人の現地の参加者がすでに待っていて、私達四十八人を拍手の渦で迎えてくれました。その人々、人の光景に緊張しながらも、岫岩県の方々に植林の大切さが理解されてきたのだとの感慨を新たにしました。

盛大なセレモニーの後、植林開始。今年には生徒の数も多く、最初はマイペースで始めたのがいつの間にか生徒達のペースに引き込まれ、終わってみると例年の四、五倍の木を植えていました。(少し張りすぎました) 私は今回で四回目の参加ですが、これ



程現地の方々と心を通わせながら、「友好植林」の文字通りの植林を行ったのは初めてではないかと思いましたが、岫岩県の方々の期待に応えられる様、あと数年はこの地での植林を継続したいものですね。最後になりましたが色々お世話になりました。来年の再会を楽しみにしております。





中国での貴重な体験

京葉流通倉庫(株) 箱守 和之

日中環境保全友好実践会に初めて参加をさせていただきました。

中国東北部への訪問は初めてですが、大連から岫岩市に向かう風景に緑が少ないこと、地方都市でありながら埃っぽい空気に驚くことから始まり、直径十センチにも満たない樹木が伐採されていることにナゼと疑問を抱きながらも、植林当日は市内の人口の二割に当たる二万人の参加に感激し、一緒に活動した子供達の純真な瞳の輝きに感動：と植林活動は大変貴重な体験となりました。

特に初めて中国の子供達と接する私にとって、短い時間でしたがお互いに片言の日本語と中国語の挨拶、一本植える毎に握手を交わしたことは小さな日中友好にもなったのではと感じております。同時に岫岩市の子供達が植林の主旨を理解して「これからも活動を継続してくれよ」と願う一時でした。

日本はバブル時代に多くの山林が伐採されゴルフ場や宅地に変わったと言われます。

先日、北海道に住む脚本家の倉本聡さんが「地球の歴史は四六億年：地球は子



孫から借りているモノ、人間が壊したモノは人間が修復する」と富良野で植林活動を行っていると言いました。今回体験した植林活動の印象が強く残っていたせいか心に残る言葉でした。

これからも私ができることは小さなことかも知れませんが、機会があれば環境保護活動に積極的に参加をしたいと感じた次第です。

結びに、素晴らしい植林活動に更に大勢の方が参加され、末永く継続されることを願い、貴重な体験をさせていただいた事務局、関係各位の皆様には心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。



山に緑が戻るのを楽しみに

(有)佐藤商店 佐藤 正勝

友好植林の参加は昨年も含め今回で六回目の参加となりました。今年度日本側の参加者は四八名と昨年度より多く参加され楽しい植林会となり、又、現地中国の方々も昨年の参加人数は約二、〇〇〇人でしたが、今回は昨年の十倍の約二〇、〇〇〇人と現地の方に聞き驚きました。小学生から中学生・高校生、一般の方々や家具工場の社員の方々まで参加となり盛大に行なわれ非常に感動致しました。当日朝起きてからホテルの窓を覗き、天候を確認した所雨が降っていて、今年の植林は雨の中かと本心残念に思いましたが、植林の開始時間に近づく毎に雨は上がり植林開始時は晴れて絶好の植林日になりました。

今年は現地中学生と一緒に苗木を植えました。現地中学生のガッツ有る行動に途中でばててしまい、スコップを中学



一生忘れられない光景

富国紙業(株) 吉川 明男

中国へは数回行っていましたが、今回のような植林事業への参加は初めての経験です。

行ったことがある事で軽い気持ちの参加でしたが、山頂で見た学生たちや、地元の人々の二万人に及ぶ集合体を見たときの光景は、一生忘れないでしょう。

統一された制服を着た少年少女の歓迎の声を歩いた時には、感動のあまり思わず涙が出そうになりました。

前もって土を掘り起こした跡での植林は簡単でしたが、次々に苗木を持ってくる子供達に新しい穴を掘ろうと頑張ってみましたが、表面を削るだけですぐに息も上ってしまい、3〜4個目の穴掘りはギブアップでした。自分ではまだ若いと思っていました。腕力の衰えをこの植

年の十周年記念式典を成功させたいと思っております。

今回、植林事業に参加された皆様、中国滞在中は大変お世話になりました。深く感謝を致します。来年第十回(十周年)



林作業でまざまざと知らされました。今回の植林で、地元の人たちの行動や、

林業局要人・子供の挨拶などを聞くことにより、国を上げての植林事業がひしひしと伝わってきました。当社の若い社員もぜひ参加して見聞を広め、国と国ではなく、人と人の結びつきを固くする事が友好の第一歩だと感じました。

植林事業にて又お会い出来る事を楽しみにしております。最後になりますが、今回参加された方々、事務局の方々大変お世話になりました事を感謝致します。本当にお疲れ様でした。





緑豊かな国に 東洋アルミ商事株 福原 大介

今回、急遽、代理ではありませんが、植林実践会に参加させて頂き、皆様と行動を共に急激に変わりつつある中国を見て廻れた事は私個人にとっても、いい経験になりました。

過去、仕事で中国の大連、瀋陽は何回か出張で訪問しておりますが、本当に行か度、街は変化し、高級車の多さが目立ち国際都市に変わりつつある現状を目の辺りにしてしまいましたが、さすが、広大な国中国ではまだまだ、その域に達していない地区が多く、今回の岫岩市なんかは正に当てはまる所での植林実践ではありましたが、地元の小中学生の歓迎を受け、2万人の人達が集まり、笑顔の素敵なお子供たちが競って私たちの所に寄って来て、



一緒に木を植えた事は今でも思い出として心に残っています。
全土の力が結集して、毎年植林を実施すればいずれ、緑豊かな国になり、その中での日本の役割が大きく中国の人達に理解していただければ、日中友好の絆が

大きく前進するものと創造できます。
また、北京での2日間は、来年のオリピックの開催を控えた建設ラッシュの中国、天安門、万里の長城を見学し、本日の国際都市に成長した姿を東京と比較して、同等以上の印象を持ちました。
来年、またチャンスがあれば会社にお願いをし、是非参加をさせて頂きたい気持ちであります。本当に有難うございました。



昭和20年代にも似たような時代が 東商化学株 永島 保彦

この度の友好植林会への参加は、会社としては2年連続2回目ですが、個人としては初参加であり、中国の地に足を踏み入れましたのも初めての経験でした。

大連・シユウヤン・瀋陽・北京に至る眺めは、さすがに広大な大地がひろがっており日本と比較して、そのスケールの大きさは予想通りといえるものでした。残念なのはプラスチックを含むゴミの散在ぶりでした。

主要行事の「植林会」では、昨年の10倍の2万人の参加とおききし、年々の継続した交流が積み重なった大きな成果であり、続けることの大切さを痛感いたしました。

また、現地の小学生を含む学生の方々の歓迎ぶりに参加ぶりに接して、私も体験した日本の昭和20年代にも似たような時代があり、その純情ぶりと経済的地

盤・社会的地盤が整っていない時期にもかかわらず、なぜか希望らしきものがあったことを思い出させてくれました。そして、少しこそはゆい思いでもありました。

旅程の最初のシユウヤンは、社会的基盤の遅れた地方地域であり、次の瀋陽は、旧奉天として日本ではなじみ深い土地柄とおききし、未発展と急速な発展途上の中堅地域との印象を深くしました。後半の北京は、もうある面では世界トップクラスの大都市であり東京のスケールを凌駕している（一足とびの発展がパワフルでもありますが）との印象も受けました。

案内役の方が、今の中国は共産主義というより拝金主義といえる時代であり、文化大革命以後、人の優しさが薄れ、今それを取り戻そうとしている時代だと説明されましたが、全く同感です。
いずれにしても、地方・中堅・大



最後に、このような行事を継続主催されている事務局には敬意を表するとともに、今後とも続けていただくことを希望いたします。また、赤堀団長・中田事務局長・田様・薄様の方々には大変なお世話を受けましたこと、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

都市地域をめぐる旅は、短くはあっても中国の縮図をみる貴重な体験となりました。



大勢の参加者に驚嘆 溝端紙工印刷株 木村 年克

この度 初めて日中環境保全友好植林実践会 第9回植林及び記念式典に参加させて頂き本当に有難う御座います。
私は今回、植林活動も初めてで有れば中国の地に降り立つことも初めてでした。今まで私の中に有った中国と実際目の当たりにした中国はあまりにもかけ離れ驚きの連続でした。

初日、バスで移動する中で驚かされたのは、行くところ行くところどこを見ても大きな木がないことです。日ごろ木材を原料にした紙製品とか割箸等を販売し、森林や木が如何に地球環境に寄与し、必要要因であるかを認識した上で、環境にやさしい商品の提案をしている私には「これが中国の現実なのか」と言う思いでした。

木材の使用量を減らす前に、この広大な中国の大部分が同じような状況であるとすれば先ずは1本1本植林をし、育てる事の重要性を感じずにいられませんでした。

翌日、植林の地に着き又驚かされました、そこには地元の小・中学生や住民、兵隊、中国政府・林業局関係者を含め総勢約2万人の人々が参加し、広い植林地は大勢の人で覆い尽くされていきました。

これほどまでに中国政府関係者・遼寧省シユウヤン県の人々が植林事業に感心を持ち参加している事に感動させられました。そこには日中環境保全友好植林実践会の人々の活動が中国の人々に伝わった事の表われとも受け取られました。

記念式典の中で赤堀団長が子供たちにも分かりやすい言葉で挨拶をされています。植林活動の意義、目的を参加した中国の子供たちが正しく理解し、伝える事の重要性を感じました。

実際の植林では子供たちに追い立てられる様に、次から次へと日ごろ持ち慣れないスコップを持ち、久しぶりに心地よい汗をかくことが出来ました。言葉は通

じなくとも手振り身振りで意思を伝え、無事植林を終える事が出来ました。
子供たちの真つ直ぐな目と、かわいいた顔が印象的でした。一瞬では有りませんが小さな友好親善が出来たと信じています。そして二箇所の記念碑には参加したメンバー全員の名前が刻印されていた事に、また感動を覚えました。

又、今回の中国訪問ではシユウヤン県↓瀋陽↓北京と中国の過去・現在・未来を垣間見る事ができ大変勉強になりました。
特に都市部と地方都市での貧富の差・賃金の格差などは肌身で感じる事ができました。

最後に日中環境保全友好植林実践会を通じて、地球温暖化の問題 黄砂や水害を防ぐために如何に森林を造る事が大切で有るかを再認識し、実践する事の意義を理解できました。

今後ますますこの植林活動が国境やいろいろな障壁を越え広がり、恒久的に続く事を願っております。有難う御座いました。





子供たちの笑顔にパワーをもらおう 新日本ビルサービス(株) 加藤 義彦

この度、初めて参加させていただきました。正直始めは心配だらけの出発です。会社からは私一人参加となり、中国語は喋れない、お酒は飲めない・・・等不安だらけでした。

現地に着き水の変わりにお酒を飲む事が当たり前のような形に戸惑いを覚えながらも覚悟を決めビールを飲み、口から火が出るような度数の高いお酒を頂きました。

翌日、早朝に目が覚め窓の外を眺めるとジャージを着た子供たちが延々と歩いている行列を見かけ何事かと思いました。数時間後植林現地に到着しビツクリ朝見かけた子供たちが笑顔で迎えてくれる。

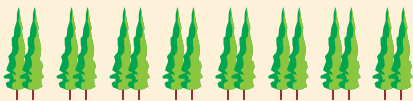


地域を挙げての取り組み デンカポリマー(株) 遠藤 克利

第九回日中環境保全友好植林実践会に参加させていただき、有難うございました。会社としては四年連続で私個人としては一昨年に続き、二回目の参加となりました。

大連市内の空港からバスで植林地の岫岩へ約4時間、車内から見た景色は前回同様、樹木が少なく、細く、小さい印象を持ちました。また、中国の都市部では自動車が多く、高層ビル化、至るところでの工事の様子など来年にオリンピックを控えた中国の急速な発展を肌で感じる事が出来ました。

植林当日のセレモニーでは地元元小中学生、農民、軍人、県政府要人などの方々総勢約2万人が参加しての歓迎ぶりには本当に感動致しました。これはこれまでの日中環境保全友好植林実践会の継続と努力、第一回から参加された方々の苦勞が報われ、日中友好及び植林事業に対する理解の高まりと中国側の地域を挙げて



植林の際も何人もの子供たちにここが掘りやすいと教えてくれ皆笑顔で協力してくれる。調子に乗り何本植えたか分かりません。言葉は通じませんがこの子達の笑顔にパワーをもらいました。

いつかこの植えた木が大きくなり緑豊かな森林となる事を祈ります。

今回2万人が参加されたとの事ですが、ここまでの規模のものとは思えません。議論するよりもまず実践する事を第一から継続されてきた幹事会社様、実践会の皆様の行動力が大きな木となつて育てられたのだと思います。最後になりましたが貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

の取組みと熱意の成果ではないかと思えます。小中学生と共に植林作業に汗を流し、身振り、手振りでコミュニケーションションを行なう中で『お疲れ様』『こんにちは』と声を掛けられる事もありました。



うございました。最初抱いていた不安は皆様の暖かさのおかげで有意義なものとなりました。

この日のために日本語を勉強して感謝、歓迎の気持ちを表現してくれた事に感激し、この植林事業は子供達が環境の大切さをいつまでも忘れる事無く、これからの日中友好にも必ずつながると確信を持ちました。今回の植林事業も私にとつて大変、有意義で充実したものとなりました。今後ますますこの事業が発展していく事を祈念いたしております。



砂丘に群がる蟻のよう 陽明印刷(株) 足立 俊夫

今回の中国植林事業に初めて参加させて頂きました。外国へ行くことも今日で二度目です。

まず、大連周水子空港に到着し、空港外の横断歩道を渡る時に、一台の車が間近をもの凄くスピードで通り過ぎて危うく轢かれるところでした。

交通や運転に関する感覚も国によって違います。日本では横断歩道の歩行者優先が習慣ですが国が違えば感覚も違うと実感しました。

そして、バスに乗り替えて一路、シュウヤンに向かいました。黄砂も無く快適な旅でした。

ホテルに着き食事会場に向かい、テーブルに着き乾杯してから料理に舌鼓を打ちたい所でしたが、料理が口に合わず、ご飯に塩をかけて食べました。

翌日オレンジのジープに乗り換えて植林に向かいました。現地到着してまず驚いたのが大勢の人でした。普段、殺風景な森林も無いところに何万人もの人間が集まり、遠くの方まで人が群がっている姿が砂丘に群がる蟻のようにも見えませんでした。

歓迎ムード一色で、大規模なイベントであることを感じさせられ、小中学生や一般人、民兵2万人に迎えられプラスバンドの中を進みました。会場までのちょっとした距離を歩き終えるとセレモニーが始まりました。

会場にある石碑には環境を考え植林に貢献した人達の名前が刻まれていて、自分の名前も刻まれていたことに感謝と嬉しさを覚えました。いよいよ、当初の目的である植林が始まり、山にいる皆さんがスコップで穴を掘り、一本々苗木を丁寧に植えていく様は地球環境を考えて貢献している事を実感出来ました。苗木が大きな木に育つ事を願い、植林に対する大切さを考えました。

翌日、四時間以上のバス移動で瀋陽に向かい瀋陽で飛行機に乗り換え一時間ちょっとで北京空港に到着後の夕暮れの中、宿に到着しました。

最終日には万里の長城での観光で男坂と女坂とあるうち男坂を選んで急な上り坂を歩き世界遺産を堪能しました。

今回の植林事業には事務局の皆様や色々な会社関係者各位のお世話になりました。関係者各位、植林事業の益々の発展を願っております。ありがとうございます。





中国緑化計画

アオト印刷(株) 常盤 広次郎

日中環境保全友好植林実践会に初めて参加させていただきました。中国に行くのも初めての事で驚かされる事が多くすばらしい経験をさせて頂きました。

植林活動では特に印象的で地元の子供たちと言葉が通じなくても、植林することで友好が深められ大変感銘を受けました。又、自分の名前が刻まれた石碑があるということから今後も植林活動をしていかなければならないという使命感も芽生えました。

中国の山は全体的に木が少ない為、土壌に日本の山のように栄養がなく成育しにくい状況下にあると思われました。我々が植林活動することで山に緑が少しずつでも増え土壌に栄養が生まれることにより中国の人々が緑のすばらしさを理



解できれば今後、中国のみならず地球全体の環境改善につながると思います。

中国は近代化が急速に進んでしまった事により地方のきれいな自然の中にゴミが投棄されていたのが印象的でした。ゴミを収集し消却するという機能が地方部では無いという現実が見受けられました。今後我々が植林活動から友好を深めていき、地方でも環境問題を意識できるようになれば中国の自然も更に改善していくと思われま

す。数十年後、自分たちが植えた木とシウワン県に広がった緑を必ず見に行き、名前が刻まれた石碑と記念撮影出来る日が来ることを願っています。

最後に今回植林事業に参加した皆様には大変お世話になり有難う御座いました。



未来の為の植林

リスパック(株) 石塚 真一

今回、初めて植林事業へ参加させて頂き、大変貴重な経験となりました。

大連からバスで四時間かけて植林地の岫岩へ向かいながらも、現地に着くまで植林を必要とする土地が一体どのような所かも、はっきりとわかっておりませんでした。しかし、植林地の緑を失った山の姿を見た時に「これは非常に深刻な問題なのだ」と、日本の中には見えないものを目の当たりにして植林事業の大切さを痛感致しました。

そして、現地の方々の参加人数が、昨年二千人に対し今回は二万人という事を聞き、それを実際に見た時に、現地の方々の植林に対しての熱意が急速に高ま



感動の植林および記念式典

旭化成パックス(株) 小林 聡

今回、私は初めて中国大陸へ行き、日中環境保全友好植林実践会第9回植林及び記念式典に参加させていただきました。

やはり初めてということでも少し緊張を感じておりました。それは、以前より反日騒動などあまり良い印象が無く、感情の激しい国だと思っていたからです。

出発当日、自宅から集合場所の成田空港までの道中は不安なことばかり考えておりましたが、空港に到着すると、多数の参加者にお目にかかり、多少不安や緊張感が和らぎました。

一路最初の目的地である大連周水子空港を目指し出発です。機内では、ドリンクサービスや昼食などを取り時間を過ごしました。

やがて、飛行機が離陸体制に入った所で外を見ると、広大な土地を見て中国大陸に渡ってきたと感じました。空港到着

っている事を感じました。地元の子供たちはお祭り騒ぎのような感じでしたが、それも微笑ましく、「この子達の未来の為になるのだな」と思うと、植林された苗木が地に根付き、少しでも早く育つ事を願わずにはおられません。

私は中国に行く事自体も今回が初めてであった為、中国の広大さ、現地の方々の暖かさ、中国の時代の転換期に触れた事も非常に良い経験となりました。最後に、これからの子供達の未来の為、また日中友好の為にも、この日中友好植林実践会が永続し、発展し、日中に浸透していく事を願っております。

また、今回このような貴重な経験をさせて頂

後、一路宿泊先ならびに植林会場である遼寧省岫岩県までの長いバスの移動が始まりました。

空港付近の町並みは、高層建築物が目立ち近代化しているなど印象を感じました。

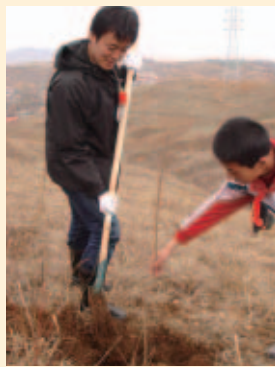
やがて、バスで走る事約2時間で町並みは一転し見渡す限り一面畑となり現代から過去にタイムスリップ驚きを感じました。

やがて、4時間程かけて岫岩市内の宿泊ホテルに到着。到着後結団式を行った後、中国に到着後初めての食事です。

中国共産党の書記の方々や県・市の方々から盛大な歓迎会を開いていただき、感動しました。

翌日、朝食を食べるにホテルの部屋から出て外を見た瞬間、大勢の子供達が山の方へ歩いている光景を目にして、最初は何だろうかと思えない印象でした。いざ、植林地に向けバスに乗り込むと、

せて頂き、大変お世話になりました事務局の皆様、ご参加された各企業の皆様、中国現地の関係者の皆様へ、この場をお借りしてお礼申し上げます。有難うございました。



植林地の場所まで道中はバスで行けないとの事で急遽、ジープでの移動となり、初の体験でした。

会場に到着すると、多くの子供達や地元の方、軍の方々盛大に迎えて頂きました。

後で聞かされたのですが、今回の参加者が過去最高の約20,000人と聞かされ今までの日中友好植林事業の歴史が偉大であったのだと感じました。

植林記念式典に当たり、地元の子供達より参加者全員にリボンを付けてもらい、それまでの不安から、驚きの連続で緊張も何処かに吹き飛んでいきました。

この様な歓迎を受け一生懸命現地の人のため、日中友好のため、植林作業を行う事を決意したのでした。

約30分後のセレモニー後、いよいよ植林作業を開始です。既に、植林する場所に穴が掘られており、苗木を植えていけば良いと安易に考えておりましたが、実際に作業をおこなうと困難の連続でした。それは、土が思った以上に硬く(土と言ふより石ころ)作業に戸惑いを感じたからです。



感動の植林活動

睦化学工業(株) 北村 伴幸

第九回植林ツアーは、弊社として三回目の参加となりますが、私にとっては初めての参加となりました。中国という大國へ足を踏み入れたのも初めてでした。大連周水子空港からバスで岫岩市内のホテルへ移動中、車窓から見える風景は木々があつても緑がほとんどない印象を受けました。

植林当日は、早朝に降った雨の影響で一時的に遅くなるかと思いましたが、天候も回復し、途中の山道が明け方の雨で緩んでいるため、バスからジープへ乗り換えて植林地へ向かいました。

現地では、岫岩県人民政府要人、小・中学生の皆さん、企業関係者、一般の方々など大勢の熱烈歓迎を受け、大変感激しました。

式典後、小・中学生の皆さん達との共同作業で植林活動を行い滞りなく済ませることができ、石碑に名前が刻まれているのを見て、感動のあまり込み上げてくるものがありました。

今年、現地の方々の参加人数が昨年の十倍ということを知り、日中友好植林事業が浸透し、植林活動の輪が着実に広がっていることを改めて実感することができました。



日中の友好に改めて感動

トップツアー(株) 沼崎 脩

私は今回の植林事業からお手伝いをさせて頂いていただきました。五日間の間に大変な距離を移動するというハードなスケジュールも皆様のご協力で無事終了することができました。

今回は前回同様、岫岩での植林事業で皆様慣れてきているのがわかって、私としても落ち着くことができました。現地での熱烈的な歓迎や、一所懸命に植林活動をするご参加いただいた皆様や地元の中

砂漠化などの環境問題は、年々深刻化しています。こうした地道な活動の努力が進行を止める意味で重要であると確信するとともに今回植林した苗木が成長し、十数年後成木になりやがて森になることを願ってやみません。

最後に、友好植林実践会へ参加させていただき、また参加した皆様が大変お世話になり有難うございました。



生を見て、崇高な目的のために力を合わせる何かをするということに大きな何かが見えた気がします。とてもすがすがしい気分になりました。

来年度はこの植林活動も十回目を迎えますが、今後植林活動がさらに発展し、大きな目標を持って活動を続けて、より多くの方々とこのすばらしい体験、気持ちを共有できたらと思います。

また、伐採したと思われる木の根が邪魔し、足場の悪さもあつたからです。

しかし、地元の子供達が苗木を1本1本用意し、一緒に作業し笑顔を見た瞬間、今回の植林活動に初参加して良かったと感動すると同時に、日中友好の架け橋となつたのだなと達成感を感じました。

作業が終了し、今回の植林を記念し記念石碑が置かれており今回参加した方全員の名前が刻まれており、岫岩の地に一生残る思い出の碑となりました。



「えー・・・」とびっくり

水野産業(株) 鈴木 俊明

その日は、少し雨が朝降つたような感じでホテルの窓から覗いて見ると路面が濡れていました。内心、雨が降つていたらどうなってしまうのだろうと不安に駆られ、恐る恐る窓を開けてみると、どんよりとはしているが、すでに雨は上がつていて遠くの空から、陽の光が今にも見えて来そうな雰囲気でした。

「木を植えることは出来そうだが、泥んこになるのもやっかいだなあ・・・。」と今度は自分が汚れることを考え、又もや不安になり、少々やる気の無さを、自身で恥じる不謹慎な朝でした。

朝食を終え集合してみると、思った通り植林の山には大連から来る時に乗って来たバスでは行けない、登れないとの連絡があり、四輪駆動のジープが用意されることので、又もや、「どうなってしまうのだ？」と輪をかけた大きな不安が自分を包んでいてしまったのです。そうこうしているうちにオレンジ色のジープが6台やってきて、自分達は指定された車に乗るらんこんな思いは口に出して言えませんが、おおかたのメンバーは自分と同じ様な感想をその時は感じたのではないのでしょうか。もっとも、車に乗り込んだ時には「どうにでもなれ・・・。」と半分やけ気味になつていたのも事実です。実

その後、瀋陽、北京と移動し世界遺産など見学し無事に日本に帰国する事が出来ました。

今回、植林作業に初参加させていただきましたが、植林を通じた日中友好の絆を深め、環境保護という目的を達した素晴らしいツアーでした。

最後になりますが、関係者の皆様に変お世話になり、この場を借りてお礼を申し上げます。

際の現地に着くまでは・・・。

植林の山まではそう時間はかからず、途中山道を進む訳で、相当の揺れに耐えながら現地に着きました。車から降り立ち、目の前に飛び込んできた風景を視たその瞬間、「えー・・・。」という、驚きと共に、自分たちがこれからやろうとしている事は、現地の人達にとつてとつもない期待を持たれているのではないかと感じました。実際にそこに参加している人たちの数。車中で大勢の人が参加している事は耳にしましたが、遠くに見える枯れ山が見る見るうちに黒い人だかりに変わり、記念の式典の場所へ歩いて向かう途中、子供たちに歓迎の花を胸に着けてもらったのですがその子供たちの意気揚々とした顔や行動。もちろん、そういった教育をされているのだとは思いますが、一人一人の態度、表情、およそ日本の子供達には出来ないと思われる振る舞いで、自分の国を少々恥じる気持ちすら湧いてくるような感じでした。そんな不思議な時間が過ぎ、子供たちと植林という共同作業を夢中でやっている自分に気がつくのはおおかたの苗木も無くなり土を掘る場所も狭まって来た終了近くで、なんと言うか充実感も自分の中では感じられました。実際、ここに来るまではこんな感情を持つとは、思ってもいなかった事です、貴重な体験をさせて頂いたと思います。

日本にいるとなんとなくこういう運動や行動を疎ましく思ってしまう現実があり、自分の国の威厳や、成り立ちなどを考えることも無く育ってきてしまった自分は、少々遅すぎるとは思いますがこれから出来る事、やらなければならぬ事を、見極めながら行動し実行していかなければならないなど、深く考えさせられた研修でした。





予想外の人数と規模

水野産業(株) 富塚 信裕

今回、第9回日中環境保全友好植林実践会の一員として初めて参加させて頂く事となり、貴重な体験が出来ました。

初めて訪問する中国、植林地への道で見る緑の無い景色が続く、町の緑化も無く、中心部を外れると貧しい風景、現在の中国が抱える問題を肌で実感し、植林についての大切さを改めて感じました。

日頃から割り箸など、木を原料とした製品を多く使用しているという事は、それだけ木を伐採し環境を破壊している。伐採したら整地し苗木を植える流をその時から実行していれば、丸裸の山がでないでしょう。

植林地では現地の大勢の方々にご協力



山頂が人で埋め尽くされて

水野産業(株) 長井 暁平

今回、初めて日中環境保全友好植林に参加させて頂き、誠にありがとうございます。植林活動やオリンピックを来年に控えた北京の活気を肌で感じる事ができたこと等、今までに経験したことがない貴重な体験をする事ができました。

植林地の岫岩へは大連周水子空港からバスで移動でしたが、車窓から見える景色は地肌が見える広大な土地と山肌が見える山ばかりで緑がほとんど無く淋しさを感じる景色でした。四月には日本でも黄砂が観測されていますが、この土が黄砂となつて飛んでくるのだなと感じました。今まで考えたことがありませんでしたが中国は隣国であり、中国での環境問題は日本と無関係では無いことを改めて実感する事となりました。

植林当日は二万人の現地の方と植林をすることができ、感動でいっぱいでした。先ず、山の下から眺めても分かる程、山

頂き感謝しております。私自身、あれだけの人数が参加されているとは思っていませんでしたし、これだけ盛大なセレモニーだとは思いませんでした。自ら、割り箸を販売し使用している中、この植林を通し環境保護に少しでも貢献できたのではないかと自分自身感じています。

普段使っている物が自由に手の届く場所にあると何も考えずに使用し、あたり前のように捨ててしまふ。1人1人が少し考えれば大きな力になるでしょう。

これから参加する関係者の方々・社員に是非参加し体験して頂きたく思います。植林活動に参加させて頂き有難うございました。ご参加頂きました皆様 本当にお疲れ様でした。

頂が人で埋め尽くされていた事。そして何より、子供たちが笑顔で私たちを迎えてくれた事でした。日本語を勉強してきたと思われる子は日本語で話しかけてくれました。又、私が中国語を理解していませんと分かること英語でコミュニケーションをとろうとしてくれる子供もおり、とても好意的に私たちを歓迎してくれている事が十分に伝わってきました。そして環境保全というテーマの元に一緒に汗を流したことで言葉は通じなくても気持ちに通じていることを実感しました。とても感動的な出来事であった為、個人的に何年後かにもういちど岫岩を訪れ、自ら植林した木々の生長を見てみたいという気持ちになりました。

今回、植林した木が何年後に成木になるのかわかりませんが、災害などが起きず順調に生長してくれたらと願っています。そして植林や育林を私たちの次の世



代へと引き継ぎ、中国全土が緑で溢れる国になる様に今後も協力できたらと思います。又、中国での植林のみでは無く日本国内でも環境保全に対する意識を持ちながら生活すること、そしてこの体験を活かし、色々な方々に環境保全の重要性を伝えていかなければと思います。最後にになりましたが、今回植林事業に参加された皆様に大変お世話になり、心から感謝を申し上げます。次回機会がありましたら植林事業に是非参加させて頂きたいと思っております。



素晴らしい植林活動

水野産業(株) 山口 努

今回、日中環境保全友好実践会に参加させて頂き有難う御座いました。今回、初めての参加で大変不安もありましたが、参加メンバーの方々と楽しく、そして今までに経験した事無い貴重な体験をさせて頂きました。私にとっての中国のイメージは「黄砂」でした。大連周水子空港に着きバスで植林地へ移動。空港から離れるにつれ道路は砂まみれの状態になり、走っている車は泥で汚れ、自転車や徒歩の人たちは前が見えにくい程の黄砂で、天気は良く晴れているのに空はどんよりと曇っている様子にすごく驚きを感じました。

植林当日は、また別の意味ですごく驚きを感じました。自分が想像していた植林活動との規模の違いです。当日は現地の人々が約二万人も参加していた事です。その時、植林活動への責任を一段と感じました。植林が始まり現地の子供達と一緒に十数本位の木を植え、言葉は通じませんでしたが時間を忘れ楽しく植林活動

を終える事が出来、そして子供達の笑顔がとても印象に残りました。また、今回の中日友好林の石碑を建てて頂き参加者全員の名前が刻まれており、一生の思い出となりました。今後もこの素晴らしい植林活動を末永く継続して頂き、出来るだけ大勢の方々へ植林活動を体験して頂ければと思います。また、機会があれば是非参加させて頂き、自分の植林した木の成長と、石碑を確認出来れば幸いです。





事の重大性

企業による植林事業への取り組みが活性化している昨今、弊社も今年で九回目となる中国植林事業を続けております。

「植林活動」と言う言葉自体は、良く耳に致しますが、恥ずかしながら、今回の植林活動へ参加する迄は、正直他人事でありました。

そんな中、実際、今回植林活動へ参加させて戴き、感じたことが二つございませぬ。

まず、一つ目ですが、植林活動の広がり大きさです。

今回の植林活動に参加戴いた現地の方々には、約二万人です。これは、前回（八回目）と比較しますと、約十倍と云う本場に多くの現地の方々の賛同を戴いた結果で、植林に対する中国の方々の姿勢を肌で感じると共に、とても感心致します。

水野産業株 矢代 雄紀

した。

そして、二つ目ですが、森林減少と云う、事の重大性を考えられたことです。

中国には、植林の日が、年に一回あるそうで、国として植林を一つのプロジェクトとして取り上げております。

訪問した場所のせいであったのかもしれませんが、確かに、山々にはあまり木が生えておらず、土が剥き出しになっているところが、多かつた様な気がしております。

今、中国で問題となっている黄砂につきましては、過剰なまでの森林伐採と無関係では無いと、改めて、考えられました。

最後に、植林事業へ参加させて戴き、このような貴重な体験をさせて戴いた会社



中国と日本に将来あるべき交流を実感

水野産業株 岡本 勝信

私は今回初めての中国が初めての海外へ降り立つ事になり、大連空港に到着した事は忘れる事はないと思えます。

空港からバスに乗り約五時間の移動中に目にした中国の町並みは全てが新鮮でした。

植林をする岫岩では地元の方々との交流で言葉が通じず、心が通えない事の重大さを感じました。

植林をする山に向かう際、地元の山火事用の四輪車の色がオレンジ色でなんともいえないのですが、更に車に乗って街中サイレンを鳴らしながら突っ切っていた時のなんとも言えない感覚も体感する事が出来ました。

また山では地元の子供達が旗を振って出迎えて頂き、胸元に花をつけてくれ、ちよっと照れくさい思いをしました。

参加者総数が私の想像を遥かに上回る約二万人とお聞きした時は大変びっくりしました。
実際の植林は子供達がつぎつぎと苗木を持って来てくれて、とにかく掘って掘りまくって、予想以上に体力を使わせて頂きながら植林を体験する事が出来ました。
子供達の笑顔や日本語での挨拶をされた時の喜びもなんとも言えませんでした。
また現地に記念碑を設けて頂いており、自分の名前が刻まれていた事に深く感動を覚えました。
とにかく体験する事全てが新鮮・感動の連続で、今後中国においてオリンピックも控えており、益々発展を遂げて行く中国との将来あるべきあらゆる交流があると思えますが、植林と言う形で今回体験出来た事に改めて理事の方々、事務局

社、並びにご一緒させて戴いた皆様へ、心よりお礼を申し上げますと共に、今後、木々だけでは無く、その他資源の有効利用・節約を常に心掛けて参りたいと思致します。



の方々のご尽力に感謝すると共に、今後多くの方に体験をして頂きたいと強く思いました。
今回参加をさせて頂き、本当にありがとうございました。



現地でお世話になった方々

<p>劉国秀 県書記 関崇新 県政府県長 鄧延發 県政府副県長 蘭真芳 政府副県長</p>	<p>郭欽平 岫岩縣林業局局長 王志運 岫岩縣林業局林科所所長 藍輝 藍氏産業董事長</p>
-----------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------



会員及び寄付募集のご案内

設立趣旨書

昨今地球を取巻く環境は、先進諸国の産業の発達と、発展途上国による急激な経済活動の活発化とともに悪化の一途を辿っています。

酸性雨、野生動物の減少・生態系破壊、温暖化現象、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、海洋汚染など様々な要素が絡み合って環境悪化を招いております。

特に最近では地球温暖化による様々な気象その他への悪影響を懸念する専門家の声が増しに拡大しており、京都議定書に象徴されるように、各国がその悪影響を認識しCO₂の削減目標数値を具体的な形で上げるなど、地球環境を守ろうとする国や人々の意思が増大しております。

我々地球に生き、生活している以上、未来永劫子々孫々のためにも住みやすい緑豊かな地球環境を守る義務があります。

CO₂の削減には、様々な産業活動での排出規制も大事ですが、植林などによる森林の増加は、一方で多様な地球環境保全効果が絶大であると言われていたことは周知の通りです。

日中環境保全友好植林実践会はこれまで、緑豊かな森林が地球に及ぼす好影響と、日本でも多く消費される割箸などの原料としての木材の正しい供給を踏まえ、森林破壊が懸念される中国での植林の実践を通じ、地球環境保全と緑化増進に寄与するため過去5年間に渡り中国黒龍江省饒河県にて計50万本のカラマツ等の苗木の植林事業を実施して参りました。

そして今後も、中国北部の緑化のための植林事業を推進すること等により、環境の保全に寄与することを目的として特定非営利活動法人日中環境保全友好植林実践会を設立します。

主な事業

- 中国の緑化推進のための植林事業
- 中国の緑化推進のための植林事業の広報誌などによる普及啓発事業
- 中国の緑化推進のための森林保全に関する調査、研究、情報収集事業
- 中国の緑化推進のための地球環境保全・改善事業
- その他目的を達成するために必要な事業

お申し込み方法

会の所定用紙（申込書）に必要な事項をご記入の上、FAXまたは当会ホームページのE-メールにてお申し込み下さい。会費は、右記口座あてお振込みくださいますようお願いいたします。なお、お振込み料金は、貴台にてご負担いただきたく存じます。

お申込書

個人正会員 団体及び法人正会員 寄付

お申込日 | 平成 年 月 日

フリガナ | _____ 業種

お名前 | _____

〒□□□-□□□□

ご自宅住所 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

〒□□□-□□□□

勤務先住所 | _____

勤務先名 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

E-mail: | _____

会費

個人正会員	10,000円(1口/1口以上)
団体及び法人正会員	50,000円(1口/1口以上)
寄付	1,000円(1口/1口以上)

●FAXにて、下記番号あてにお申し込み下さい。

FAX番号 03-3836-5215

●お振込先

会費は下記口座あてお振込みくださいますようお願い致します。
なお、お振込み料金は、貴台にてご負担くださいますようお願い致します。

お振込み先	UFJ銀行 秋葉原支店
口座番号	普通預金 3951682
口座名義	日中環境保全友好植林実践会 事務局長 中田 武巳(ナカタ タケミ)

●ご連絡先

特定非営利活動法人 日中環境保全友好植林実践会事務局
TEL 03-3836-9408 URL <http://www.syokurin.com>
E-mail: info@syokurin.com

編集後記

中国で第9回目の植林事業は今年も昨年同様鞍山市岫岩県での2回目の活動となりました。

今回は48名という当会始まって以来の大勢の植林訪中団を結成することが出来ました。

また、現地での参加者も昨年の10倍約2万人を動員しての一大事業となり、中国での我々の地味な活動が地元の住民や企業、林業当局の琴線に触れ、この町挙げてのイベントになったものと聞き及びます。この波紋が中国全土に広がることを期待します。

今回参加された植林訪中団の全員が、大きな感動を胸に帰朝されたこと

が感想文にも現れています。日本国内でも我々の活動をもっとPRして、来年の第10回記念植林には更なる賛同・協力者が増えることを願っております。

(事務局長 中田武巳)

